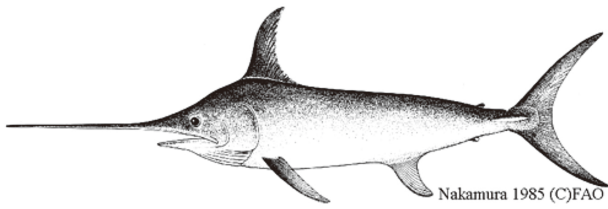


# メカジキ インド洋

Swordfish, *Xiphias gladius*



Nakamura 1985 (C)FAO

## 管理・関係機関

インド洋まぐろ類委員会 (IOTC)

## 最近一年間の動き

総漁獲量はピーク年（2004年）の4.1万トンから年々減少し2011年には2.2万トンまで落ち込んだ。この原因はソマリア沖海賊の活動範囲が拡大し、多くのはえ縄船が他の海洋へ移動し漁獲努力量が急減したことによる。そのため、メカジキ資源は回復しつつある。2012年には2.6万トンへと10年振りに増加した。これは、一部はえ縄船（特に台湾）がインド洋へ戻ったためである。レ・ユニオンのメカジキはえ縄漁（メカ縄漁）は2013年にオキゴンドウによる深刻な食害被害があり、漁獲されたメカジキの40%程度が被害にあい多数の漁業会社が操業できなくなり倒産した。

## 生物学的特性

- 寿命：調査中
- 成熟開始年齢：調査中
- 産卵場：産卵場はソマリア沖とインドネシア沖にあると考えられている
- 索餌場：マダガスカル～南アフリカ沖合域及び豪州南西部沖合
- 食性：主にいか類
- 捕食者：小型歯鯨類、さめ類

## 利用・用途

刺身、寿司、切り身（ステーキ）、煮付け

## 漁業の特徴

従来、日本及び台湾がまぐろ類を対象としたはえ縄で混獲していたが、1990年代から沿岸国（インドネシア、オーストラリア、レ・ユニオン、スリランカほか）が本資源を主対象とした操業を開始し、漁獲量が急増した。

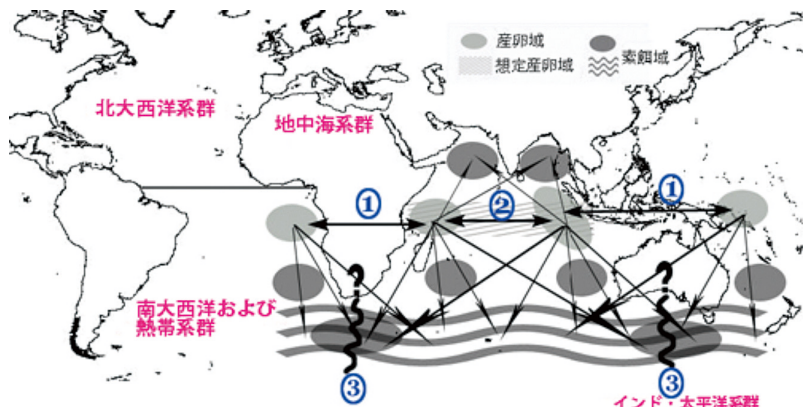
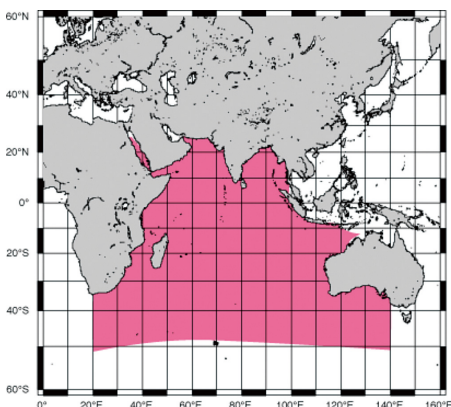
## 漁業資源の動向

1950年より総漁獲量は徐々に増加し、1991年には8,000トンに達した。翌年1992年には、総漁獲量は1.8倍の1.6万トンと急増した。その後、総漁獲量は急増を続け、1998年に3.6万トンに達し、第1回目のピークを記録した。これらの急増は、主に台湾のはえ縄の漁獲量増加による。1999年から総漁獲量は減少し、2001年には3.3万トンまで落ち込んだ。2002年より再度増加し、2004年に4.1万トンと最大の漁獲量を記録した。しかし、2006年から急減し2011年には2.2万トンにまで落ち込んだ。急減の原因は、ソマリア沖海賊の活動範囲が拡大しはえ縄船が他の大洋へ移動し漁獲努力量が急減したことによる。2012年には2.6万トンへと10年振りに増加した。この原因は一部はえ縄船（特に台湾）がインド洋へ戻ったためである。

我が国の漁獲はまぐろ類が対象のはえ縄操業の混獲で、1982年までの漁獲量はほとんどの場合1,000トン以下の低レベルであった。しかし、1980年代から漁場が高緯度域に広がり、漁獲量は2009年まで1,000～2,700トンの高いレベルで変動した。2011年には、漁獲量は急減し576トンとなり1981年以来20年間で一番低い漁獲量となった。これも海賊の影響によるものである。しかし、2012年には719トンと増加に転じた。

## 資源状態

2011年の第9回かじき作業部会で行った4種資源評価（2009年までのデータ使用）で、 $3.0 \text{ 万トン} \leq \text{MSY} \leq 3.4 \text{ 万トン}$ 、 $1.1 \leq B_{2009}/B_{\text{MSY}} \leq 1.6$ 、 $0.5 \leq F_{2009}/F_{\text{MSY}} \leq 0.63$ といった結果が得られた。なお、2011年の漁獲量は2.0万トンで過去5年間の平均漁獲量は2.4万トンであった。以上より、本種は、漁獲圧も資源量もMSYレベルまでには至っておらず、資源状況は安全な状態にあるといえる。ただし、南西海域に限った資源評価を行った結果、乱獲傾向が見られローカルな資源量悪化が確認された。



本資源の分布（左）と産卵・索餌域（右）（IFREMER 2006 改変）

### 管理方策

第 17 回年次会合（2013 年）は、インド洋メカジキの資源管理方策に関し以下のような勧告をした。インド洋全域では、今後の漁獲量は 3 万トン（MSY レベル）を超えるべきでない。今後現状のような漁獲努力量が続けば特に資源管理方策は必要ないが、定期的に資源状況をモニターする必要がある。南西インド洋では、地域的な乱獲状況が見られなくなるまでは（ $B_{MSY}$  が 1 以上になるまでは）、今後の漁獲量は 6,678 トン（2009 年の漁獲量）を超えるべきでない。

### 資源評価まとめ

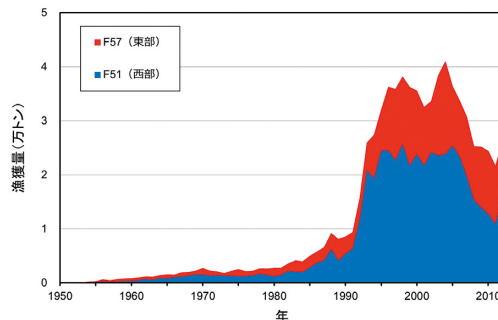
- インド洋全域では漁獲圧も資源量も MSY レベルまでには至っておらず、本種の資源状況は安全な状態にある。
- 南西海域では資源は軽度の乱獲状況となっている。

### 資源管理方策まとめ

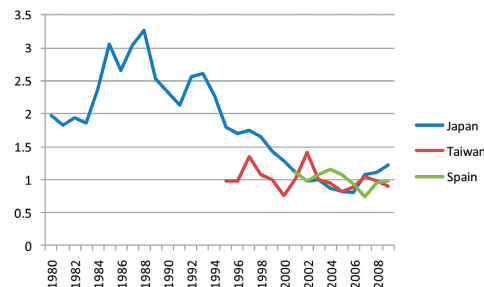
- インド洋全域で今後の漁獲量は 3 万トン以下。現状の漁獲努力量が継続すれば緊急の管理方策は必要ない。
- 南西インド洋では軽度の乱獲状態となっているので、今後の漁獲量は 2009 年の漁獲量（6,678 トン）以下にする。
- 漁業（漁船）管理一般に関しては、インド洋メバチを参照。

### メカジキ（インド洋）の資源の現況（要約表）

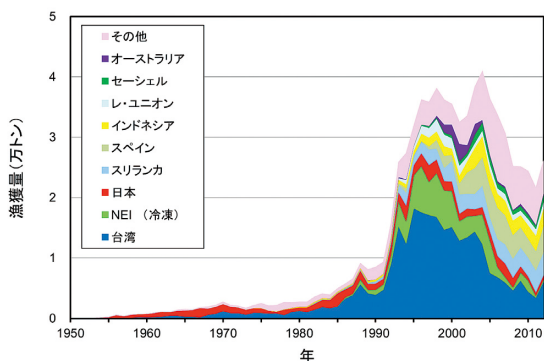
資源水準	中 位
資源動向	微 増
世界の漁獲量 (最近 5 年間)	2.2 ~ 2.6 万トン 平均: 2.5 万トン (2008 ~ 2012 年)
我が国の漁獲量 (最近 5 年間)	576 ~ 1,574 トン 平均: 906 トン (2008 ~ 2012 年)



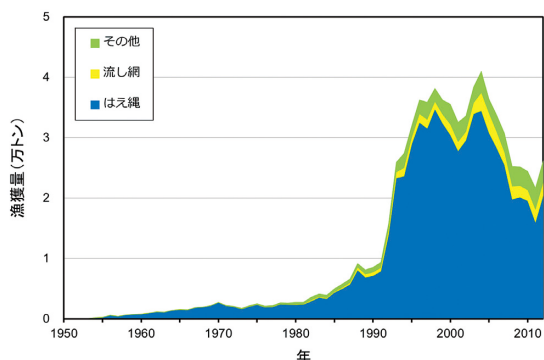
インド洋メカジキ FAO 海域別漁獲量 (1950 ~ 2012 年) (IOTC データベース 2013 年 9 月)



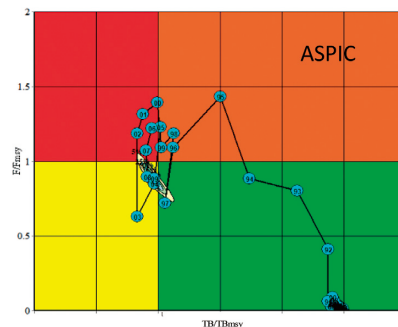
標準化されたメカジキはえ縄 CPUE (日本・台湾・スペイン)



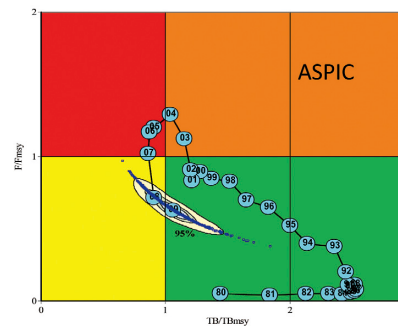
インド洋メカジキ国別漁獲量(1950 ~ 2012年) (IOTC データベース 2013年9月)



インド洋メカジキ漁法別漁獲量(1950 ~ 2012年) (IOTC データベース 2013年9月)



ASPIC による資源評価に基づく資源状況の変遷 (南西インド洋)  
(神戸プロット: Stock trajectory)



ASPIC による資源評価に基づく資源状況の変遷 (インド洋全域)  
(神戸プロット: Stock trajectory)